

山行報告書

作成:2010年7月9日

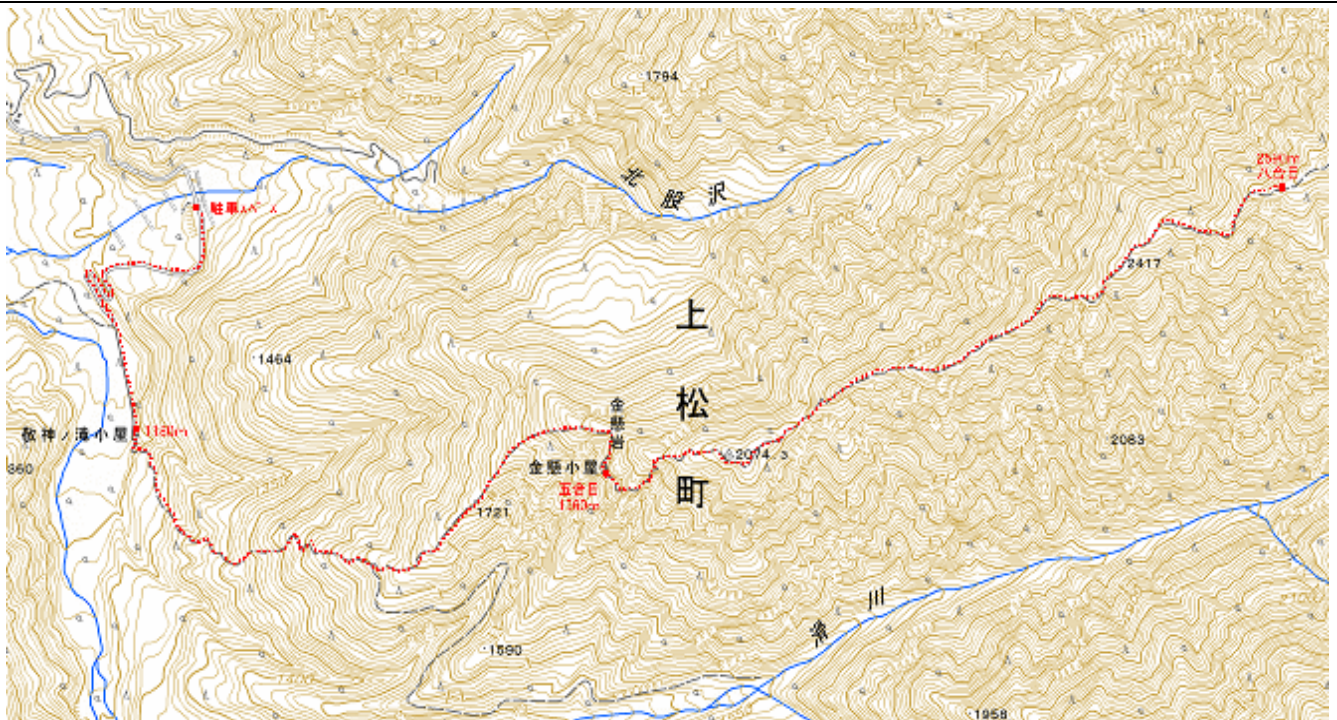
愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	木曾駒	目的[方法]	W.ウェストンの軌跡をたどる
期間	2010年7月5日(月)	形態	日帰り八合目までピストン
参加人数	1人		

行動記録:◇曇りのち晴れ

7/4(日) 自宅(2330)===豊田南 IC(2340)===中津川 IC(040)===道の駅賤母TS1(0100)

7/5(月)道の駅賤母 TS1(530)===コンビニ===滑川砂防公園 P1250m(610,630)--0:20--敬神ノ滝山荘(650)1180m
 ---三合目 1270m(713,718)--0:53--四合目(811,820)--0:51--金懸小屋五合目 1960m(911,925) --0:52--六合目(1017,1025)--0:50--七合目(1115,1125)--0:35--七合目半(1200,1215)--0:25--八合目 2590m(1240,1254)
 ---1:01--六合目(14:05,1413)--0:34--金懸小屋(1447,1500)--0:49--三合目半(1549、1604)--0:28--敬神ノ滝山荘(1632,1635)--0:25--滑川砂防公園 P(1700,1720)=灰沢鉱泉=赤沢自然休養林(1805,1835)=上松駅(1915,1935)===ねざめホテル(1945,2045)=食事・仮眠==中津川 IC(2340)===豊田南IC(0:40)===自宅(050)



日誌:

伊勢湾岸豊田南 IC から休日割引を利用し、中津川 IC まで走り大型車のエンジン音する 19 号線沿いの道の駅賤母で仮眠。起床後 30 分程ゆっくりしてから登山口に向う。2 合目登山口は砂防工事のため移動していて 5 分程走行すると赤い立派な橋を越えた右側に 20 台の駐車スペースがある。トイレはないがゲート横に登山届箱はある。敬神ノ滝山荘まで蛇行した舗装路を下ると発破時刻や、熊出没注意を促す看板もあった。山荘横から沢を渡り、薄暗い人工林の登山道はよく整備され道標もあり歩きやすい。湿気が多く蒸し暑いが樹間から御嶽山の眺望に癒される。五合目の金懸小屋は 12 畳に 2 階もある清潔感ある綺麗な小屋で屋外に簡易トイレ 2 つ、水場は近く金懸岩からホースで引かれ冷たい水が流れていた。岩壁を巻くと胸突き八丁となり傾斜もきつくなり、らくだの背、遠見場、天の岩戸と変化ある登山路にイワガミ、ツガザクラも見られた。三ノ沢岳の勇姿を眺めながら爽やかに吹く風は快い。高度も増し呼吸も荒く辛い登りだ。幾度か休んで八合目着となる。広くて休むによいが樹木に遮られ、せつかくの木曾谷から一気に突き上げている宝剣の峻険な穂先も空木岳への稜線も木の間越しにしか見られないのが残念である。15 分ほど高みを楽しんでからゆっくりを意識して下るが、それでも疲れを感じる頃、突然右前方、山腹側で不自然な音と共に高い広葉樹が揺れ、バシッ、バッキと不穏な動き。こちらも熊鈴の紐がちぎれるくらい振った。少し歩いて高度計を見ると 1420m。標高差 1400m のピストンと茹だる暑さでへろへろだ。下山後の楽しみにしていた秘湯の灰沢鉱泉は休みで、宿のご主人の勧めで赤沢自然休養林まで脚を延ばす。奥深く広大な美林で大きい駐車場にわれ独り。熊鈴を持ってオオヤマルンゲ群落地手前まで歩くが闇恐引返す。戻る途中の R473 から中央アルプス天空景色に車を止め、今日一番の至福を感じる。地元のおばあさんに「上松駅に咲いてるよ」と教えてもらい、車で急行すると日没前の甘い香りのする天女花にやっと出逢うことができた。

感想:

上松 A コースは集団登山にも使われ熊さん以外危険を感じることなく歩くことができ、木曾駒に新しい喜びがあった。1891.8.12 ウェストンはこの上松駅～Aコース～伊那宿(伊那市) 駒ヶ岳横断を 12 時間で成し遂げたそうである。